

京都部落問題 研究資料センター通信

第1号

発行日 2005年10月25日 (年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

最近の京都府 京都市の

結婚差別統計をよむ

所長 秋定嘉和

：人権の尊重の緊要性に関する認識の高まり、社会的身分、門地、人種信条又は性別による不当な差別の発生等の人権侵害の現状その他人権の擁護に関する内外の情勢にかんがみ、人権の擁護に関する施策の推進について、国の責務を明らかにするとともに、必要な体制を整備し、もって人権の擁護に資することを目的とする。(人権擁護施策推進法 第一条)

別編」を利用する。対象は京都市域を除く京都府下、二四、六一〇人(男一一、九七三人 四八・七% 女一一、六三七人 五一・三%)である。

(一)はじめに

本稿が対象にした主な統計は『報告書』の第八章「人権侵害と結婚時の反対の状況」である。

一、京都府の場合

最近、京都府も同和地区の実態調査をやられているようであるが、「町村合併」などがあるにつき、いまだ未実施のところがあるという。そこでやむを得ず、一九九三年の資料(平成五年度調査で平成七年四月府が公表)をみてみよう。

資料名は『平成五年度 同和地区実態把握等調査(京都府生活実態調査)報告書』で、第二巻の「市町

まず、「夫婦の出生地の組合せ別夫婦の組数」の割合を見てみると、「夫婦とも同和地区の出身」という比率は六〇・三%であり、「夫は同和地区、妻は同和地区外」は二三・五%、「夫は同和地区外、妻は同和地区」は九・九%となっていた。そして「夫婦とも同和地区の出身」という夫婦の比率は、若い世代ほど低くなり、夫の年齢が二〇歳代の夫婦の場合には三〇・三%となっていた。一六

年前の一九八七年調査では、は六三・二%、は二一・一%、は八・八%であった。したがって「地区外」の人々との結婚がわずかであれ増加したといえよう。

(二)結婚反対について

『報告書』の第八章の五表は「同和地区外で出生した配偶者の親元の結婚時の反対の有無別」で「夫婦いずれかが同和地区外生まれの」人を「面接対象者」にしたという。

簡単に言うと地区外の人々との結婚のさい反対をうけたのか、ということである。

面接対象者総数一、八五四人で、そのうち九三六人が男、九一八人が女であった。そして反対をうけた人は男二九六人(三一・六%)、女三二一人(三五・〇%)であり、不明は男、女平均四・〇%、男は五・三%、女は二・六%であった。一方、なしは一、一六三人で男六三%、女六二・四%で反対されなかったのは男女とも六二・三%ということになる。つまり三分の二は反対されなかったということである。

この点をみて、結婚差別が減少したとするのか、まだ、つよく残っ

ているとするのかの論点がこのころ。

(三) 地域的差異

そこで市町別にみると「反対なし」の市町は、二桁台の調査数を示している市町で、府下平均の六三%を指標にして考えると次のことが言える。福知山、綾部、宇治、長岡京、田辺、井手、笠置、精華、園部など都市圏、あるいは人口流動がみられるところでは平均以上の「人権侵害の無」の数値を示している。

それ以外は平均値か、それ以下である町で、舞鶴、宮津、亀岡、八幡、和束、丹波、夜久野、加悦、大宮、加茂、八木、日吉などは平均値六三%を下まわっていた。主としては山村を抱えた農村で、産業立地との関係など今後の追究課題となるだろう。

(四) 人権侵害の時期

次いで第八章の二表では、人権侵害の時期別統計がとられている。ここでも市町別の男女総数で、「この五年以内」、「六〜一〇年前」、「一〇年〜二〇年前」、「二〇年以上前」、「不明」と五分区分で示されている。総数二、四四三人のうち二五・三%が「五年

以内」、「一三・七%が「六〜一〇年前」、「一〇〜二〇年前」は二一・七%、「二〇年以上前」が三八・四%を閉めており、「二〇年以上前」が多い。老・壮年層がうけた差別体験がしるされているといえるが、考えるべきは、「この五年以内」の二五・三%である。「六〜一〇年前」の一三・七%の約二倍弱あり、なぜ最近の方が多いのか、この理由が説明できないのは残念である。啓発活動や実際の増加の結果という推測しか思いあたらないが如何なものか。行政・運動・市民などの現実的推論が聞きたいものである。

(五) 地域別差異

ところで、前例にのっとりて市町のなかで総数一〇件以下の市町をはずして考えてみたい。ここでは、「この五年以内」の高さをみると、「二〇年以上前」とかわらない三〇%台前後をもつのは、亀岡、八幡、井手、木津、加茂、和束、八木の町々であり、「二〇年以上前」より減少したのは福知山、舞鶴、綾部、宇治、宮津、長岡京、田辺、精華、京北、園部、丹波、日吉、和知、大江、加悦、大宮、網野、久美浜の諸市町であった。

逆に「この五年以内」は「二〇年以上前」より上まわっている市町がある。八幡(二九・一から三〇・四%)、笠置(二三・四から三四・〇%)、和束(二九・二%から三七・五%)、八木(二九・一から三〇・四%)、夜久野(二八・六から四七・六%)では、最近になって「人権侵害体験」の増加がみられるのである。八幡など都市的な地域も含まれておりここでも啓発の関連有無が問われるのである。

(六) 人権侵害の内容

第八章の三表は、「人権侵害」の内容について調べており、男女総数二、四四三人のうち「結婚上の人権侵害」は二六・五%、「就職」は五・〇%、「学校生活」では一七・二%、「職場や職業上のつきあい」は二〇・一%、「日常の地域の生活」は二一・四%、「その他」が八・八%、「不明」が一・〇%であった。「結婚上の人権侵害」は最も多く、府平均二六・五%をこえる市は宇治、宮津、亀岡、八幡、田辺、井手、和束、精華、八木、日吉、和知、三和、夜久野、大江、加悦、大宮などである。

(七) 人権侵害されたときの相談者 第八章の四表では、「人権を侵害されたときの対応」であり、「相手に抗議した」人は二〇・七%、「身近な人に相談した」一九・四%、「有力者に相談した」二・四%、「民間団体等に相談した」三・六%、「弁護士に相談した」〇・五%、「市役所や町村役場に相談した」三・二%、「警察に相談した」〇・三%、とりわけ、「黙って我慢した」が最も多く四五・八%、「その他」一五・二%で、「不明」一・九%であった。

「相手に抗議した」のは二〇・七%、さまざまな人々や民間団体に相談したのは約二六%であり、行政や法的機関に相談したのは四%程度と少なかったことは公的機関には相談しにくいことを示している。「黙って我慢」が最も多く、ついで、相手に抗議、身近な人の役割など重視されるべきことである。「黙って我慢」の割合が平均値四五・八%をこえる市町は福知山、舞鶴、田辺、井手、笠置、精華、丹波、三和、大江、網野、夜久野などであり、舞鶴、田辺、井手、笠置、精華、大江、網野、夜久野などは五〇%前後の「我慢」する

人々を抱えていた。

(八) 近親者の態度

第八章の六表では、さらに細かく反対者を問い、総数六一七のうち、反対は「親」が最も多く七〇・七%、「兄弟姉妹」六・八%、「親戚」一七・八%、「知人」〇・八%、「その他」三・二%、「不明」〇・六%となっていた。

「親」が反対したという点に留意して、かつ、平均七〇・七%を基準にみても、これを越えるのは福知山、舞鶴、宇治、亀岡、田辺、井手、精華、日吉、夜久野、大宮などで府南部、北部ともに反対はひろくわたっているのである。

(九) 結婚後の往来

最後に、結婚後の地区と「親元との行き来」の点であるが、この統計は他府県でもまれな貴重な統計である。

第八章の七表では、「結婚時に反対した同和地区外で出生した配偶者の親元との行き来の状況別」とあり、総数六一七人、男二九六人、女三二一人で、六七・四%が「行き来している」とし、男六八・九%、女六六・〇%が記されている。「行くが来ない」四・九%、

「行かないが来る」〇・六%、「あまり行き来しない」は八・三%で、「行き来していない」は一・二・〇%もあり、あわせる二〇%以上の親元との没交流状況が示されている。また、すでに「親元は死亡している」など、その後のつながりがない結果も記されていた。

この、の合計数をこえる市町を示すと左記のようになる。福知山は二二・四%、宇治は二六・六%、八幡二六・三%、田辺二七・六%、加茂三六・九%、精華三三・八%、夜久野四一・七%となり府の南部や都市的市町を問わず、結婚後の「行き来」の不十分な状況が示されているのである。

二、京都市の場合

一方、京都市では同じ時期に『京都市人権問題に関する意識調査報告書』が公表されている

この調査について報告書作成に参加した野口道彦氏は、「結婚差別に影響を与える要因について二〇〇〇年京都市民意識調査から」(『部落解放研究』〇二年二月号)で興味ぶかい報告をよせてくれている。調査対象は、京都市居住の二〇歳以上の市民を無作為に七、

五〇〇人抽出(そのうち三三二サンブルは外国籍市民)し、三、六二〇人から回答をえたものである。市内で三、六二〇人というのは少ないがこれをもとに考えてみたい。

(一) 結婚相手

ここでは、「子どもの結婚相手の条件」を問い、その第一位が男女とも「性格」、「健康状況」をあげ、相手が女性の場合は三位以下、「家庭環境」、「家事能力」、「教養・センス」をあげ、男性の場合は三位以下は、「行動力・実行力」について「職業」、「収入・財産」などがつづいていた。「結婚に対する態度」について、結婚相手が同和地区出身者、在日韓国・朝鮮人、日系外国人である場合、三五%前後の人が「問題にしない」とし、「親としては反対だが子ども

の意志がかたければ仕方がない」と四〇%、四三%の人がのべており、一六・二〇%の人が「考えなおすように言う」としていた。ところが性別にみても「問題にしない」比率は、男性は三八・九%、女性は三一%前後となり、その差はひらくのである。また、年齢別にみても「問題にしない」が、二〇〜二四歳の男性

は七〇%前後、女性は六五%前後といずれも青年層に高いが、五五歳以上になると二〇%前後に低下していくのである。

(二) 調査について

ところで注意すべきは、府と市の調査方法のちがいである。府は地方都市を中心にし、「属地・属人」主義で調査を行なった。市は、多数の流出者を見るなかで追跡調査が不可能であること、つまり調査母体は一般市民であり同和地区住民は対象としては一般市民の中に拡散してしまっている。したがって、ここでは大阪の方法である同和地区への流入者も含めた調査の方が有効であるといえる。大阪の方になるには市の居住条件の大幅な緩和と、市民の居住差別意識の減少しかありえない。

調査の結果をめぐって今後、京都府・京都市・大阪府・大阪市のありようが調査方法の手法を問うことになっている。今後の人権行政の基本データとしてどの方法が有効なのか論議をよぶであろう。しかし、昨今の状況は、「人権の世紀」といいながら、非人権のコースを走っており、「調査」一つをとってみても困難といえよう。

西伊之助 小正路淑泰

差別の歴史を考える 12 日本型儒教イデオロギー ひろ
たまさき

部落解放研究 165 (部落解放・人権研究所刊, 2005.8) :
1,000円

特集 前近代大阪の部落史研究の新展開

河内国大江御厨供御人の多様な活動とその消長 大阪
府西ノ辻遺跡の事例より 別所秀高 / 神世七代につ
いて 障害と罪をめぐっての覚え書き 森明彦 /
『勘仲記』にみえる「清目」について 布引敏雄 / 元
禄期における天王寺「非人」集団の諸側面 悲田院中
間宗旨改帳と類族生死改帳を手がかりとして 寺木
伸明

松阪商業高等学校教員差別事件第一審判決について 丹
羽雅雄

英国における教育コミュニティへの関心 拡張学校 (ex
tended schools) の実験 林寄和彦, レイチェル・ウィ
ンター

書評 『封印される不平等』 (橘木俊詔編著) 花立都世
司

部落史関係文献目録 (2004年4月~2005年3月)

部落解放史ふくおか 118号 (福岡県人権研究所刊, 20
05.6) : 1,050円

特集 現代韓国と人権

にんげん・羽音豊 2 羽音豊調査研究プロジェクト

近世民衆史の泉 47 古文書学習会

書評 『隠された風景 死の現場を歩く』 (福岡賢正
著) 河東真也

ビデオ評 『ガッジョ・ディーロ』 ロマと非ロマのは

ざま (監督トニー・ガトリフ, 1997年, フランス・ルー
マニア) 船津建

部落問題研究 173 (部落問題研究所刊, 2005.8) : 1,1
11円

ハンセン病療養所における患者自治の模索 第三区府県
立療養所外島保養院の場合 松岡弘之

ハンセン病者の療養形態に関する考察 群馬県吾妻郡草
津町湯之沢部落の事例から 廣川和花

人別帳と掟を通じてみた日本近世の身分 塚田孝

愛媛における「部落寺院」をめぐって 上 高市光男

書評 岩間一雄編 『三好伊平次の思想史的研究』 朝治武

部落問題文芸作品発掘 10

島田清次郎 『地上』 第3部 静かなる暴風 (第8章) /

作品解題 秦重雄

水と村の歴史 20号 (信州農村開発史研究所刊, 2005.
3)

秩父事件の二つの舞台で 田中洋一

旦那場・勤進場に関する研究ノート 藤沢靖介

紀要20号に寄せて

水の音 佐藤治郎 / 地域における部落史研究のあゆみ

北佐久郡望月町を中心に 尾崎行也 / 村の歴史を

教材として 紀要『水と村の歴史』と教育 渡辺正
喜

講演記録

私の価値観を変えた部落解放運動 塩谷幸子 / 輝いて
生きるために 江嶋修作

りべらしおん 12号 (福岡県人権研究所刊, 2005.7)

本の紹介 『水平記 松本治一郎と部落解放運動の100年』

(高山文彦著)

部落史連続講座 近代京都の被差別部落 Part 2

第1回 10月21日(金) 「京都 被差別地域の幕末維新」

辻 ミチ子さん(前京都文化短期大学)

第2回 11月10日(木) 「近代の公衆衛生と部落問題」

小林 丈広さん(京都市歴史資料館)

第3回 11月18日(金) 「喜田貞吉と部落問題 京都を中心に」

吉田栄治郎さん(奈良県立同和問題関係史料センター)

第4回 12月2日(金) 「伊東茂光と崇仁の教員たち」

八箇 亮仁さん(河合塾文化教育研究所)

時間: 午後6時30分~8時30分 場所: 京都府部落解放センター2階 実習室 参加費: 無料
~ 参加希望の方は電話・FAX・電子メールでご連絡ください ~

現代史の目 47 日本の降伏をめぐって 小山仁示

調査報告 名張市2004年度各種調査から見えてきたもの
内田龍史

書評 竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う 西洋的パラ
ダイムを超えて』 抵抗と遡行、その先を一望 友常勉
ヒューマンライツ 210 (部落解放・人権研究所刊, 20
05.9) : 525円

中国からみた日本 「反日」とは何か～中国の若い人た
ちは何を訴えているか 王智新

問われる日本の人種差別 人種主義に関する国連特別報
告者の日本公式訪問から 原由利子

連載 戦後60年 部落解放の歩み 4 松本治一郎のもと
で 中山英一

ひょうご部落解放 117 (ひょうご部落解放・人権研究
所刊, 2005.6) : 700円

特集 日韓条約締結40周年を考える

座談会 日韓条約締結40周年を振り返り、現状と未来
を語る 仲尾宏, 尹達世, 太田修, 飛田雄一 / 戸惑う
カナリヤ 新聞読み 独島(竹島)問題 高東元 / 日
韓条約と在日コリアン元軍人・軍属の戦後補償 金宣
吉 / 在日コリアン生徒たち 神谷重章

あらためて「人権侵害救済法」の意義を考える～国会
(自民党内)の議論から懸念されるいくつかの事象～
兵藤宏

映画の紹介 「父と暮らせば」(黒木和雄監督, 2004年)

高吉美

本の紹介

『人種概念の普遍性を問う 西洋的パラダイムを超え
て』(竹沢泰子編) / 『夕凧の街 桜の国』(この
史代著)

部落解放ひろしま 77号(部落解放同盟広島県連合会
刊, 2005.7) : 1,000円

特集 被爆・戦後60年 平和をどう勝ちとるか

被爆の実相と部落差別 下原隆資

解放運動的人間像 20 新しき理論の視点 小森龍邦

谷口修太郎さんを悼む 石岡隆允

部落解放 552号(解放出版社刊, 2005.7) : 1,050円

第31回部落解放文学賞

部落解放 553号(解放出版社刊, 2005.8) : 630円

特集 戦後の部落問題

戦後の部落史を考える 渡辺俊雄 / 戦後責任と部落解
放運動史研究 朝治武 / 二つの映画「破戒」に見る戦

後の部落問題 黒川みどり / インタビュー 占領期の同
和行政を語る 磯村英一

差別の精神史 26 沖縄に被差別民は存在したか 中 赤坂
憲雄

映像フリースペース 「ヒトラー～最期の十二日間～」
(オリヴァー・ヒルシュビーゲル監督, 2004年, ドイツ)

白井佳夫

本の紹介

『マーシャル諸島核の世紀 1914-2004』(豊崎博光著)

村井吉敬 / 『かず先生のメルマガ通信 心理学から読
み解く子どもの人間関係』(松下一世著)

西光万吉と和英政策 日本最初の国際平和貢献政策 加藤
昌彦

ダフルフル危機 スーダンで進む大量虐殺 岡原功祐

インタビュー もっと難民の状況に理解を ビルマ難民と
して日本に来て ティン・ウィン

「在日」高齢者の実態が浮き彫りに 大阪「在日コリア
ン高齢者生活実態調査」2003年 庄谷怜子

差別の歴史を考える 11 日本型華夷意識の形成 ひろた
まさき

お詫び 『知っていますか? 色覚問題と人権 一問一答』
にかかわって

部落解放 554号(解放出版社刊, 2005.9) : 630円

特集 「同対審答申」40年

インタビュー 「同対審答申」の舞台裏 磯村英一 /

「同対審答申」はこうして作られた 同和対策審議会
総会速記録より 金井宏司 / 人権政策の原点への回帰

「同和対策審議会答申」の歴史的位置づけ 菱山謙二

差別の精神史 27 沖縄に被差別民は存在したか 下 赤坂
憲雄

ニュースのPhase 「嘉義丸」事件 米軍魚雷で321人死亡
惨事に手を貸したのは誰か 新納功一

本の紹介 『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖
縄人』(野村浩也著) 上野千鶴子

連続・大量差別はがき事件の東京地裁判決に対する見解
部落解放同盟中央本部, 部落解放同盟東京都連合会

入札制度にいいんだ障害者雇用 大阪ですすむ「行政の
福祉化」 富田一幸

現代社会がもたらす新たな部落差別 なりすましメール
およびホームページによる部落差別事件について 赤井
隆史

全国水平社創立大会に参加した『種蒔く人』の作家・中

- 国民の言論・表現を規制する「人権擁護法案」 前田武
人権問題研究 27 (大阪市立大学人権問題研究会刊, 2005.3) : 1,500円
- 大阪市立大学もバリアフリーに 堀智晴
障害当事者からみた大学 大阪市立大学における障害者問題へのとりくみ シンポジウム記録 松井義孝・沼野淳一
ホームレス生活の構造状況と生活主体の営為 ホームレス問題の基本的なとらえ方 八木正
「われわれ日本人」「純粋な日本人」そして「内なる越境」 戴エイカ
福祉教員制度の成立・展開と教育の〈外部〉 高知県の事例を手がかりに 倉石一郎
戦争・基地・女性 沖縄における米軍の占領政策下の女性 秦花秀
人権と調和したアジアの文化的価値 カンボジアにおける人権NGOの挑戦 木村光豪
信州農村開発史研究所報 92号 (信州農村開発史研究所刊, 2005.6)
南牧村砥沢の金鉱山跡 佐藤興平論文の紹介 斎藤洋一
「朝倉重吉・米重関係資料」雑感 川向秀武
スティグマ 114号 (千葉県人権啓発センター刊, 2005.8) : 500円
- 特集 戦後60年
君津市における軍需工場と朝鮮人の強制連行の記録 栗原克榮 / ある在日の古老からの聞き取り 朝鮮人の強制連行の記憶
多様性 非対称性 当事者性 「千葉県人権施策基本方針」を具体化するために 前 福岡安則
世界人権問題研究センター研究紀要 10号 (世界人権問題研究センター刊, 2005.3)
平安時代の天皇葬儀に関する基礎的研究 山本尚友
府県社会事業行政における都市社会事業の構造と展開 京都府・京都市社会事業行政と財団法人京都共済会の関係構造をめぐって 杉本弘幸
同和教育における地域進出論をめぐるとの諸問題 研究第2部 同和教育チーム
律令制下の王権と礼楽 菅澤庸子
知識人の戦争責任・戦後責任 佐多稲子の場合 源淳子
「国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約を補足する人身売買、特に女性および子どもの人身売買を防止し、抑止しおよび処罰するための議定書」採択と日本の取組み 人身売買の処罰と被害者の保護を中心として 米田眞澄
史料紹介 座談会「在日朝鮮人問題に就て」(1948年) 水野直樹
事例紹介 オーストリアの個人通報事例 違反認定事例に対するフォローアップ手続 前田直子
どの子も伸びる 353 (部落問題研究所刊, 2005.7) : 735円
「人権教育」とは 教材「同和問題」の問題点 谷口幸男
どの子も伸びる 354 (部落問題研究所刊, 2005.8) : 735円
「人権教育」とは「自らの差別性を問う」人権教育 谷口幸男
どの子も伸びる 355 (部落問題研究所刊, 2005.9) : 735円
「人権教育」とは 異常な「身分制度」の学習 谷口幸男
奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要 第11号 (奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2005.3)
中世大和の被差別民一考 山村雅史
明治初年の被差別部落分村の一事例 吉田栄治郎
近代奈良県の地域社会と部落差別をめぐるとの問題点 井岡康時
光慶寺・光瀬寺の教線展開と「穢多」村寺院 奥本武裕
大和国最後の検校・隅田検校の生涯 中川みゆき
古代社会とケガレ意識 和田萃
奈良県立同和問題関係史料センター事業ニュース 11号 (奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2005.3)
研究あれこれ 被差別部落改姓一件 吉田栄治郎
ヒューマンライツ 208 (部落解放・人権研究所刊, 2005.7) : 525円
北陸の部落差別 真宗大谷派高岡教区「『同和』問題についての意識調査」から 松谷了秀
現代史の目 46 藤範晃誠の小説 小山仁示
玲子さんの映画批評 「ミリオンダラー・ベイビー」(クリント・イーストウッド監督, 2004年)
ヒューマンライツ 209 (部落解放・人権研究所刊, 2005.8) : 525円
韓国からみた日本 日韓関係の現状をどう考えるべきか 朴一
戦後60年 部落解放の歩み 3 憲法の理念を差別撤廃に 中山英一

- 第2回シンポジウム報告書「いま、同和教育に問われているもの」～人権教育（人権）が同和教育（部落）を素通りしていく現実を前にして～（前半）
 季節よめぐれ 213（京都解放教育研究会刊，2005.10）
 第2回シンポジウム報告書「いま、同和教育に問われているもの」～人権教育（人権）が同和教育（部落）を素通りしていく現実を前にして～（後半）
 グローブ 42（世界人権問題研究センター刊，2005.7）
 アジア諸国と人権 2 安藤仁介
 同志社大学を出た韓国詩人 鄭芝溶の栄光と悲惨 梁永厚
 韓国からのニューカマー 仲尾宏
 京都に伝わる陰陽道史料 梅田千尋
 国際人権ひろば 62（アジア・太平洋人権情報センター刊，2005.7）
 特集 戦後60年のいまと未来を考える
 置き去りにされた日本人 中国残留孤児 もず唱平 / 在日問題と日韓関係の未来を考える 金敬得 / より自由な世界をつくるために 国連改革の焦点 清水奈名子
 こべる 149（こべる刊行会刊，2005.8）：300円
 福祉のしくみが変わるとき 障害者自立支援法をめぐる 高田嘉敬
 「人権擁護法案への私的な感想」にかかわるわたしの「弁解」 佐々木寛治
 斎藤美奈子著『物は言いよう』 自らの性差別意識をチェックする 坂倉加代子
 介護現場は常に薄氷を踏むが如し（前編） 中村大蔵
 こべる 150（こべる刊行会刊，2005.9）：300円
 学校教育「うらおもて」史の今日的意義 佐藤秀夫著『教育の文化史』を読む 四方利明
 出あいなおしの訪ずれ 虫賀宗博
 介護現場は常に薄氷を踏むが如し（後編） 中村大蔵
 時間の過ごし方に学ぶ 「めだかの学校」のことなど 坂倉加代子
 月刊滋賀の部落 379（滋賀県同和问题研究所刊，2005.7）：400円
 戦後同和教育の証言 橋本清市と「なんでも会」 鈴木俊亮
 月刊滋賀の部落 380（滋賀県同和问题研究所刊，2005.8）：400円
 書評 『近江の差別された人びと 中・近世を中心に』（滋賀県同和问题研究所編） 阿部義宣
 戦後同和教育の証言 関谷喜与嗣と長浜東中 鈴木俊亮
 月刊滋賀の部落 381（滋賀県同和问题研究所刊，2005.9）：400円
 青年・労働・部落解放運動と同和行政に献身 池元勇雄の歩んだ道 鈴木俊亮
 書評 『近江国愛知郡山塚皮田村関連文書 浦部家文書・春日家文書』 水谷孝信
 戦後同和教育の証言 平田諦善の仕事 鈴木俊亮
 人権21 調査と研究 177（岡山人権問題研究所刊，2005.8）：650円
 特集 JRと人権問題
 人権と部落問題 733（部落問題研究所刊，2005.7）：630円
 特集 「教育改革」のゆきつくところ
 文芸の散歩道 「いのちの初夜」と『破戒』 川端俊英
 差別と向き合うマンガたち 17 「黒人描写問題」の問題はどこにある 「人種」について考える 吉村和真
 人権と部落問題 734（部落問題研究所刊，2005.8）：630円
 特集 「人権擁護法案」の危険性
 言論・メディア統制のなかの人権擁護法案 田島泰彦 / 「国籍条項」による反動的修正でも法案の本質は変わらない 渡辺久丸 / 人権擁護法案をめぐる「部落差別」認識の検討 奥山峰夫 / 人権擁護法案は「解同」と自民党の大談合劇 植山光朗
 本棚 『教師の仕事の「基礎・基本」』（東上高志著） 住岡英毅
 文芸の散歩道 幕末の志士と明治の元勳と 夏目漱石と明治を歩く2 水川隆夫
 差別と向き合うマンガたち 17 江戸の無名人 市井を見る眼 田中聡
 人権と部落問題 735（部落問題研究所刊，2005.9）：630円
 特集 解放教育から管理教育へ 広島
 本棚 『近江の差別された人びと 中・近世を中心に』（滋賀県同和问题研究所編） 山田稔
 文芸の散歩道 森田草平作「離合」 芸人や渡り者の逗留の場を描いた小説 桑原律
 差別と向き合うマンガたち 18 世間話と自分の居場所 アニメ『機動戦士ガンダム』シリーズ 表智之
 季刊人権問題 [「月刊人権問題」改題] 創刊号（兵庫人権問題研究所刊，2005.7）：735円

収集逐次刊行物目次 (2005年7月～9月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

- | | |
|---|--|
| 明日を拓く 61 (東日本部落解放研究所刊, 2005.7) :
1,050円 | ある生徒の高校受け入れの取り組み |
| 特集 東日本の人権・同和教育の今 | 元気のもととはつながる仲間 7 生きることが軽んじられ
る世の中で (前編) 外川正明 |
| 岡山部落解放研究所報 267号 (岡山部落解放研究所
刊, 2005.6) : 100円 | 語る・かたる・トーク 125 (横浜国際人権センター刊,
2005.7) : 500円 |
| 人権のまちづくりをめざして 第26回研究所総会記念講
演報告 | 信州の近世部落の人々 3 斎藤洋一 |
| 第4回差別と身分制読書研究会報告 黒川みどり「部落差
別における人種主義」 「人種」から「民族」へ 佐
川英治 | 同和問題再考 55 戦争と部落解放運動 田村正男 |
| 解放教育 453 (解放教育研究所編, 2005.8) : 730円 | 部落差別の現実 36 学校では 12 教師の「自由からの
逃走」2 江嶋修作 |
| 特集 夏休みを極めるために | 語る・かたる・トーク 126 (横浜国際人権センター刊,
2005.8) : 500円 |
| 元気のもととはつながる仲間 5 同和教育は自分と向き合
う営み 外川正明 | 信州の近世部落の人々 4 斎藤洋一 |
| 解放教育 454 (解放教育研究所編, 2005.9) : 730円 | 同和問題再考 56 革新勢力と部落解放運動 上 田村正男 |
| 特集1 子どもと創る人権総合学習 | 部落差別の現実 37 江嶋修作 |
| 特集2 学級集団づくり・第二ステージの新展開 | かわとはきもの 132 (東京都立皮革技術センター台東
支所刊, 2005.6) |
| 元気のもととはつながる仲間 6 乗り越えていく若者たち
外川正明 | 靴の歴史散歩 77 稲川實 |
| 解放教育 455 (解放教育研究所編, 2005.10) : 730円 | シリーズ姫路革3 晒革、白布を敷きたる如く。明治は製
法交替期 出口公長 |
| 特集 ともに学び、ともに生きる 大阪発・知的障害の | 皮革関連統計資料 |
| | 季節よめぐれ 212 (京都解放教育研究会刊, 2005.9) |

事務局より

本年6月、しばらく空席となっておりました所長に秋定嘉和が就任いたしました。就任の挨拶はホームページに掲載しておりますのでご覧ください。また、運営委員にはこれまでお世話になってきました外川正明さん・中島智枝子さん・安田茂樹さんに加えて金森襄作さん・辻ミチ子さん・湯浅孝子さんが就任され、新しい体制で今後の研究資料センターの事業について論議をいただいております。本年度の部落史講座につきましては4頁のご案内のとおり開催をしておりますので是非ふるってご参加下さい。また、昨年6月まで発行しておりました「Memento」に代わり、この「京都部落問題研究資料センター通信」を季刊で発行することになりました。事業の案内や報告が中心になりますが、当資料センターの資史料を生かしていくための情報提供も引き続きおこないます。尚、ホームページ、メールマガジン(週刊)でもこれまで同様、「人権関係テレビ番組情報」「新着図書情報」「定期刊行物目次速報」などの情報提供をおこなっておりますので、どうぞそちらもご覧ください。

所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分